

だいすきな中央保育所へ 51年間、思い出をありがとう



中央保育所のはじまり

昭和44年に90人の園児が入所し、三戸町立中央保育所の歴史が幕を開けました。

中央保育所は、保育指針「丈夫なからだ（育つ心）『あいさつのできる子・あかるく元気な子・思いやりのある子』」を掲げ、家庭的な雰囲気の中で心と体の健康や感性を育み、保護者や地域の人たちから信頼され、愛される保育所を目指してきました。

これまでに1105人の子どもたちを送り出してきました。

たくましく成長した 子どもたち

城山や名久井岳などの山々に囲まれ、ゆったりとした環境で育った中央保育所の子どもたち。春は園庭に咲く満開の桜の下で元気に遊び、冬には園庭の手づくりスケートリンクや雪山で楽しく体を動かすなど、四季を身近に感じながら、子どもたちは、たくましく成長しました。

平成14年には、振り付けや衣装の用意など、保護者や地域の保存会の

皆さんからの協力により、中央保育所オリジナルの「中央よさこいソーラン」が完成しました。その「中央よさこいソーラン」は子どもたちにより踊り継がれ、徐々に手が加えられて今では「火炎太鼓・よさこいソーラン・蒼き獅子」の3部作となり、メドレーとして発表を披露できるまでになりました。子どもたちは、朝夕と毎日楽しく踊っていました。

友だちと仲良く遊んで楽しかったことや嬉しかったことなど、この中央保育所には、笑顔溢れるたくさんのキラキラした思い出が詰まっています。

中央保育所最後の日

3月21日に行われた閉所式には、多くの人が出席し、中央保育所との別れを惜しみました。式では、年長児11人が保育所のうた「でっかいぞ」を元気な声で歌い、閉所式に花を添えました。その後、「中央保育所51年のあゆみ」の映像が流され、参列者は当時を懐かしみました。

子どもたちは、園庭をかけ回り、歌声を響かせて笑顔いっぱい、最後の日まで楽しく過ごしました。そして、3月31日をもって51年の歴史に幕を閉じました。



三戸中央保育所の歌
「でっかいぞ」

作詞 高橋 義明
作曲 平栗 城志

一． おひさま まるい
ぼんちも まるい
三戸中央保育所
みんなの おどる
わもまるい

二． しるやま あか
りんごも あか
三戸中央保育所
みんなの かおも
まっかっか

三． おおきな まべち
なくいの おやま
三戸中央保育所
みんなの ゆめも
でっかいぞ



皆さんに感謝を込めて



十七代目所長
渡邊 陽子

三戸中央保育所は、保護者や地域の皆さんあつての保育所だったと感じています。

保護者の皆さんには、畑の肥料撒きや土壌づくり、園庭のスケートリンクづくりなど、たくさんのご協力をいただきました。

地域の皆さんは、子どもたちが歌う四季折々の歌を聞いて、季節を感じていたようで、「元気な声が聞こえなくなると寂しくなる」という声も……。保育所の先生たちも、子どもたちの笑顔が日々の励みになっていました。

子どもたちは、元気に楽しい時間を過ごし、多くのことを学んで成長することができました。この中央保育所で、子どもたちと過ごした時間は、私の宝物です。

これまで中央保育所にご協力いただいた皆さんには、感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございました。



画：田村まさよし

▶こちらの絵は、画家の田村まさよしさんが、中央保育所閉所に際し描いたものです。

胸に手をあてて思い出す
素敵な保育所
みんなのひとみ みんなの笑顔
いつまでも忘れません
「みんな、みんなありがとう」
みんなの未来が
キラキラと輝きますように……
渡邊 陽子より